

2012年8月26日  
公益財団法人日本セーリング連盟  
外洋安全委員会

外洋湘南・葉山ヨットクラブ 御中

## 安全運航講習会・プログラム

### 1. 安全に対する意識=法律や規則は守ってくれない

- ・ 法律や規則の遵守=安全の確保ではない。
- ・ 海上で艇や乗員を守ることができるのは、自分自身でしかない。
- ・ 艇の責任者の重要性。

### 2. 事前準備の大切さ

- ・ 艇の構造や装備といったハード面の点検
- ・ 通常帆走、荒天帆走、落水などのトラブル対応などのソフト面の訓練
- ・ 主な事故防止、被害拡大防止のための事前準備。  
浸水/火災/操船不能/落水

### 3. 落水事故防止と落水からの被害拡大防止

#### 3-1. 落水しないことが最大の事故防止

- ・ 適切な操船、適切な作業
- ・ セーフティーハーネスやテザーの適切な使い方

#### 3-2. 被害の拡大防止

##### <落水者>=浮いていること

- ・ ライフジャケットの種類とその特徴

##### <捜索者>

- ・ 落水地点の記録。落水者を見失わない。
- ・ 落水救助の方法（クイックストップ/ストレートバック）

### 落水防止には、まめなクリッピング

落水防止には、作業時の適切な手順や位置取りにより自身の体を保持することが大切であるが、波浪の影響などで不意に自身の体を支えられなくなるなどの万が一の場合にはハーネスとテザーが自身を艇から離れることを防止する重要な装備である。

ハーネスとテザーの使用において最も重要なことは、億劫がらずにまめに艇にクリップすることである。せっかくハーネスとテザーを装着していても艇側にクリップしていない限り、それはハーネスとテザーの役割を果たさない。時にテザーのクリッピングは、移動や作業時に邪魔に感じられ、これくらいの海象ならば大丈夫だろうと油断した場合に事故は起きるものである。どんな場合でも作業のスピードより安全が優先されるべきであり、まめなクリップが自身を落水から防止することを忘れないで欲しい。

### 膨張式ライフジャケットは定期点検が不可欠

「落水しないこと、させないこと」が落水から始まる以降の被害拡大防止の最善策である。ただし、万が一落水してしまった場合に自身の命を守り被害を最小限に留めるための重要な装備がライフジャケットである。

膨張式のライフジャケットが十数年前からプレジャーボートの世界でも一般的に広く使われるようになり、その機能は年々進化しているが、当初より変わらない点は「定期点検が必要」ということである。

膨張式ライフジャケットには作動部分があり、「適切に作動しなければライフジャケットとして機能しない」ということを肝に銘じておくべきである。また、気室は経年変化による劣化や移送時などに鋭利な金属などが突いて穴が空いている可能性もある。外洋特別規定では年に1回以上の定期点検が必要とされているが、簡単な点検（ポンベの装着状態や気室の穴の有無など）は着用時毎回点検するくらいの慎重さが必要かもしれない。

ライフジャケットの一般的な点検方法などは、JSAF 外洋安全委員会のウェブサイトに掲載してある（<http://www.jsaf-anzen.jp/1-9.html>）。機種によって取り扱い方法が異なる場合があるので、必ず自身が使っている機種の取扱説明書に従って、まめな点検を行って欲しい。

ハーネスやテザー、ライフジャケットは自身の命を守る大切な装備である。ただし、それらは正しく使用してその機能を初めて発揮する物である。装備の維持点検は艇の責任者に求められているが、使用する乗員自身も同様に留意すべきであろう。

また、安全確保全般は法令や規定を守るだけで担保されるものではない。安全確保はどうあるべきかを常に自身が意識して考える必要がある。

JSAF 外洋安全委員会 委員長：大坪明